

福岡女大家政
中村学園短大平松園江 竹本真知子
才田真喜代 °波田嘉子

目的 おむつはたたまれた布に排尿され、それに荷重がかかるので、それらに適応した布の保水測定法を検討し、既に2~3の報告をした。今回は吸水性能とJISのバイレック法で、吸水長と吸上水分量を測定し、互いの関係、又保水量、保水率との関係を検討した。又、肌に直接触れ、排尿後の含水量が少なくなってしまう素材として市販されているライナー類（敷紙、テビロン布等）と紙おむつ最上層の含水量を検討した。

方法 予め水処理した市販おむつ8商品をJIS-L1018により吸水長、吸上水分量を調べた。別に、4×4cm、8枚重ねの布に一定量の水を注下後荷重をかけ、除去後の重量を測定し、保水量、保水率を算出し、前者との関係をみた。また、市販おむつの他に、ガーゼ、普通晒、新モス、メリヤス等を加え、それらの水浸漬処理布、薬品（ Na_2CO_3 、 HCl ）処理布について、吸水長、吸上水分量を測定し、それから吸水量（ g/cm^2 ）、吸水率を算出し、吸水長との関係、紅上加工剤等の影響、糸密度との関係を調べた。さらに、ライナー類は晒8枚重ねの上にのせ、おむつの保水量測定法に準じて行ない、最上層1枚の含水量を調べ g/cm^2 を出した。又、厚さも測定し、それぞれとの関係も調べた。

結果 市販おむつの吸水長と保水率、保水量は相関が低く、おむつ布の保水評価には用いないがよい。吸水長は吸上水分量とは相関が大きい。糸密度とは関係が少ない。ガーゼ以外は薬品処理した方が吸水長がで、紅上加工剤による吸水阻止が認められた。ライナー類の含水量は同一厚さにすると晒と大差なく、ろ過層としての機能を果たしていないものが多し。しかし実際に荷重がかかる場合の尿の逆もどりの場合等、検討の余地がある。